

① 国際交流・異文化理解に関わる学習

・長野マラソン国際交流ブースボランティア

国際教養科1年生40名が長野県観光部国際課のスタッフの皆さんとともに、ブース運営のボランティアに参加した。アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、ベトナム、中国のブースで、各国のゲームの手伝いを行った。来場者の子ども達や、長野県国際化協会のサンタ・プロジェクトの外国籍児童就学支援募金活動の参加など、多くの方々と交流した。



・留学生受け入れ、台湾・ドイツの学生訪問団との交流

今年は中国、ニューカレドニアから留学生を受け入れた。また、台湾・ドイツから学生訪問団が訪れ本校生徒と交流した。歓迎セレモニーでは各国の言葉で挨拶するなど授業の成果を生かす場面が見られた。また、授業や昼食を一緒に取ることでより交流が深まりそれぞれの国の文化を知るよい機会になった。



・海外ボランティア参加

文部科学省の留学プログラムに応募しガーナとトーゴに留学しボランティア活動をした。滞在中学校のトイレ作り、高校で学んだ英語やフランス語で現地の子ども達に勉強を教えるなどのボランティアを行った。子ども達に和服を紹介するなど日本の文化も伝えることができた。今回の留学で学んだことをきっかけに将来発展途上国の女性を助ける仕事をしたいという夢を見つけた。3月には2年生が1名、ユネスコスクールの国際交流プログラムに参加する。



② 伝統文化に関わる学習 ～信州学による探求学習～

信州（長野県）について、文化祭で発表するためにクラス単位の探求学習、更に深く探求し発表につなげる個人または少人数学習を行った。御嶽山の現状、ジビエ料理、かつて善光寺から白馬を結んだ善白鉄道などそれぞれの興味関心にあった題材を選び最終的には学年発表会が行われた。発表会は自主的に行動し、臨機応変に対応できるリーダー格の人材発掘・育成につながるよう、会の運営については生徒会のHR長会を中心に準備、運営を行った。

国際教養科の生徒達は発表を全て英語で行い、発表での英語での質問に普通科の生徒達も英語で答えている場面が見られた。



③ 地域との連携に関わる学習

・スポーツレストラン

スポーツレストランとは、受講生徒が店員となり様々なニュースポーツをメニューとして、地域の皆様にスポーツを楽しんでいただけるように公開している授業。今年度は毎回10～30人の高齢者の方から小さな子連れ的女性など、いろいろな年齢層の方々が集まり、生徒とともにニュースポーツを行った。メニューはソフトバレーボール・ボーリング・ペタンク・ターゲットバードゴルフ・ピククルボール・バドミントン・卓球などである。

・地域と方々と一緒に防災訓練

10月6日（金）に全校で防災訓練を実施。本校は周辺地区の避難所となっているが、その地区の人たちに区会を通じ参加を呼びかけ、ともに避難訓練を行い、有事の際の行動の参考にさせていただいた。

・ボランティア活動

本校は長野県の中でも北に位置し、降雪・積雪もそれなりに多い。また、坂道のある高台に校舎があり、積雪時は自動車運行も苦慮する。その積雪の際には運動系クラブの生徒職員が中心となって、近所の坂道や通学路で雪かき作業を行い、周辺から感謝の電話があるなど地域の連携に貢献している。

④ 新聞を教材とした学習

本校では授業やHRの時間を用いてNIEに取り組んできた。特に人権、平和、ジェンダー平等に関する記事について公民科の授業で取り扱ったり、HRにおける新聞記事紹介で取り上げてきた。記事をもとに自ら考え、意見を述べ、どのような社会を形成するかについて取り組んできている。

⑥ 主権者教育

人権感覚の根幹である、「政治に参加し、自ら社会を形成する担い手となる」資質を育成するために、毎年学年ごとに総合的学習の時間を用いて、主権者教育を行っている。

今年度は3学年で6月に、長野市選挙管理委員会と信州大学の学生を招いて、若者が政治に参加することの意義を巡ってのグループワークショップを行った。ワークショップでは、若者が投票に行くことにより、それがどのように政治に反映されるかを学ぶ中で、意見を出し合う力、人の意見を受け取る力、グループの意見をまとめる力などを学んだ。

また、1・2学年においては、11月の衆議院議員選挙を前に模擬投票を行い、どのような視点で候補者に投票するか、投票の実態、実際の選挙との差異などを学ぶ中で、政治参加の必要性について考え、人権感覚を磨いていった。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

長野県教育委員会発行「私たちの信州学」
朝日新聞連載のSDGsに関する記事

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。
※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

・各学年ごとに作成する「LHR計画」および「総合的学習の時間」の中に位置づけ、SDGsを認識することができるような授業での取り組みを考えている。指導に当たっては、情報の授業なども活用し、プレゼンテーション能力を磨く学習をとりいれているほか、校内での成果を校外でも発表できる機会を積極的に活用している。

・各自が校外で実施したボランティア活動などを、他の生徒が共有することができるような機会をできるだけ多く展開している。

・あえて教育課程に位置づけず、日々の学習活動の中でSDGsに関連する部分を認識し、その共有化を図る。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。
※チェック事項 1-4 に対応

委員会を中心に計画と集約を行っているほか、学習活動の折々にESDとの関連性を啓発している。一方で無理をして行わないこと、特定の委員に負担が集中しないことが継続の鍵である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。
※チェック事項 1-5 に対応

継続的で持続可能な活動とするために、できるだけ日常の学習の活動の中でその意義を生かしていくことに主眼を置いている。特定の教員が進めることによる様々な弊害を生まないためにも、無理をしないことは大切である。しかし、その計画と成果については共有化を図り、意義を認め合うことが必要である。積極的な生徒だけでなく、意識を校内全体に広げていくことも課題である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。
※チェック事項 2-2 に対応

本校が活動拠点としての積極的な活動をしていない。なぜなら、まずは校内環境整備が第一であり、さらに教員の仕事を増やすことにより本校のESDが継続しなくなることを避けたいと考えるからである。しかし、様々な研究会において、これからの探究学習におけるESDの有効性については、積極的な発言を行っている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
※チェック事項 2-3 に対応

信州 ESD コンソーシアムへの参加発表

本校は、信州大学が核となっていて行っている、「信州 ESD コンソーシアム」に加盟し、連携をとりながら活動に参加している。2月3日(土)には成果報告会に参加し、国際ボランティア活動の様子について報告した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成
※チェック事項 2-4 に対応

新年度夏に本校のICT環境が整えられる予定である。ウェブ会議システムが導入されることもあり、特に海外の学校との交流を考えていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）
※チェック事項 2-5 に対応

国際交流プログラムなど、生徒のニーズにマッチしたプログラムが活用できるようになったことで、生徒の積極性が一層高くなってきている。
今後必要となってくる探究学習の課題として、SDGsを取り上げていくことに抵抗感がない。

(3) 平成 30 年度の活動計画

(全体として)

総合学習を通じての「信州学」の推進。キャリア教育における自分探し学習におけるSDGsからの観点の付与。(1年)

人権平和学習による成果の共有化。(2年)

主権者教育における人権意識の涵養。新聞を用いた学習を継続する。

各種学習活動、行動におけるSDGsの共有化と理解を進める。(1～3年)

(国際教養科)

授業の中で取り扱う信州学や模擬国連を通じ、地域や世界の諸課題を認識し、それを解決しようとする姿勢を養う。さらに海外の学校との国際交流を通じ、国際人権感覚とともに国際社会で活躍する担い手としての資質を育成する。

国際教養科における成果も、学校全体で共有化できるよう工夫する。